

マメ科 シナガワハギ属

シナガワハギ (品川萩)

Melilotus officinalis (L.) Pall. subsp. *suaveolens* (Ledeb.) H. Ohashi

自生環境

荒地、河川敷、道ばた など

原産地

日本在来と推定

生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

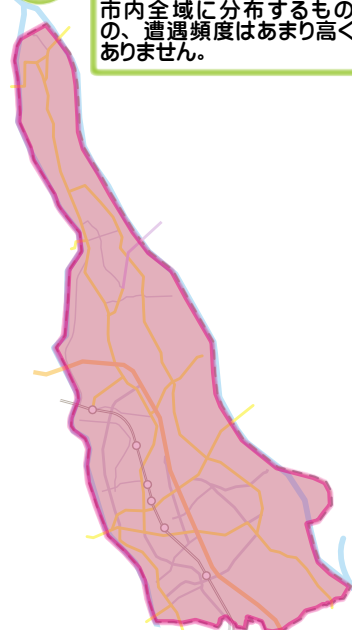
ここでは在来種とする説を採用しました。ただ在来種か外来種かはつきりせず、地域の植生での立ち位置がよく分からないため、今後の研究の進展を見守りたいところです。

特徴

- ☆ 東アジア地域の原産で、世界じゅうに広がっています。乾燥した荒地に自生し、市内では河川敷や新しく土地を造成した場所などで見ることができます。同じ仲間白い花を咲かせるシロバナシナガワハギといっしょに生えていることもあります。
- ☆ 茎はどんどん枝分かれしながら1mくらいの高さになります。5～10月ごろ、葉のわきから長い柄を出し、その先に黄色い花の穂をつけます。花は蜜がたっぷりとおるため、蜜源植物（蜂蜜を採るために使われる植物）としても利用されます。
- ☆ 全体にクマリンと言う成分を含むため、乾燥させると桜餅のような甘い香りがします。そのためハーブとしても栽培されており、メリロットまたはイエロー・スイートクローバーという英語名でも呼ばれています。おもな用途はハーブティーやポプリ、料理の香りづけなどで、香りを楽しみます。

市内の分布状況

市内全域に分布するものの、遭遇頻度はあまり高くありません。



在来種？外来種？

江戸時代末期に品川付近（東京）で発見されて名づけられたシナガワハギ。アジア原産で日本もいちおう分布域内、そのため在来種とする説があります。一方で現在各地で見られるものは、明治時代初期を中心に大陸から渡来したものが広がった、外来種とする説もあります。新しく整備された街や造成地に多いなど、外来種を連想させる生えかたする傾向があり、真相ははっきりしません。



花は黄色で
長さ4～6mm



花の穂はやがて
果実の穂となる



葉のわきから
花の穂が
長くのびる



果実は楕円形で
長さは3～4mm



しょうよう
小葉

小葉は3枚

葉は生乾きになると
桜餅のような甘い香りがする



たくよう
托葉

托葉は糸の
ように細く、
よく見ると
1本の脈がある



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

